

実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)

- ◆課題(研究領域): 「共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践」
- ◆研究テーマ: 「認知行動療法のICT化とサポートネットワーク構築によるバリアフリーなメンタルケア」

研究期間: H25.10~H27.9
委託費総額: 9,990千円

<研究代表者>

下山 晴彦: 東京大学大学院教育研究科 / 教授



<専門分野>

臨床心理学

<Webページ>

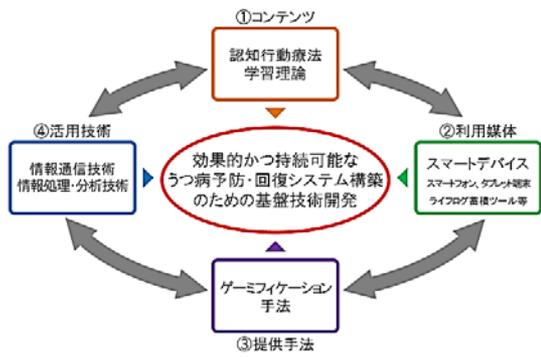
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/shimoyama/>
<http://kokoroiki-today.com/>

<研究目的・概要>

多くの方が心の問題を抱えながらも、心理社会的バリア(偏見)のために援助要請ができず、有効な心理支援が届かない社会的問題

インターネット上で利用できるICT化心理支援サービスを提供し、それを媒介として臨床心理士などの専門的サポートネットワークにつながることでできるメンタルケア・システムの構築を目指す

- ゲーミフィケーションを取り入れたICT化認知行動療法(CBT)の開発
- サポートネットワークの形成と、ICT心理支援の実践研究
- 実務者として、制作会社、および、学校現場・医療現場の臨床心理士と連携

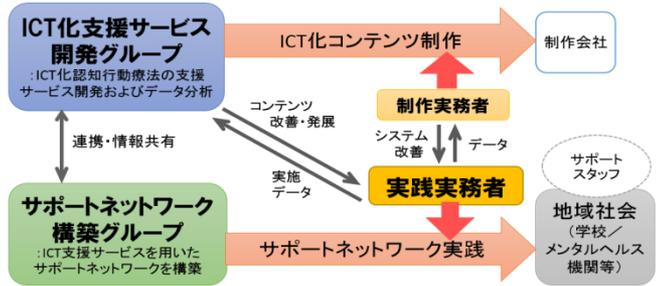


効果的なICT化心理支援サービスの開発

“生きる力”を幅広く支援する心理社会的支援サービスを実装

<研究計画の特徴>

最新の知見によるコンテンツ開発(研究)グループと、現場における専門家のネットワーク構築グループの共同連携、および開発現場、実践現場への橋渡しを行える実務者との連携体制の整ったプロジェクトチームにより、バリアのない開発、実践、データ分析、改善を行いながら研究を遂行する。



メンタルケア・システムの開発・実践・研究体制

<目標とする研究成果>

- (1) 社会で活用できるICT化心理支援サービス(CBT)の制作
学校現場におけるトラウマケア、医療現場におけるうつ等、それぞれの現場の心理的問題に有効な最新の認知行動療法に、動機づけの要素、効果的なコミュニケーション、データ収集・情報提供を可能とする最新のICT技術や情報処理・分析技術を活用し、より多くの方が持続的に取り組めるサービスをする。

(2) ICT化心理支援サービスの現場への導入

安全かつ効果的に実践・改善を行うために、開発者・実践者の連携、情報共有、専門的支援へのつなぎを実現するネットワークを構築し、ICT化心理支援サービスを現場に導入する。



メンタルケア・システムの一例(学校現場)